

第2回就学前教育・保育の質の向上推進委員会議事録

開催日時 令和元年 11月 11日（月）
午前9時30分から午前11時30分まで
開催場所 西脇市生涯学習まちづくりセンター 第1会議室
出席委員 5名（全員出席）
出席職員 事務局6名
公開・非公開の別 非公開

1 開 会

<事務局>

ただいまから令和元年度第2回就学前教育・保育の質の向上推進委員会を開催いたします。

この会は、西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会条例第7条第2項により、過半数の出席をいただいておりますので、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

2 教育長挨拶

3 議 事

(1) 第1回視察訪問について

<事務局>

この後の議事の進行につきましては委員長にお願いいたします。

<委員長>

それでは、始めさせていただきます。9月の訪問について意見交換をしながら、私たちにとって課題や今後の方向性のすり合わせをしたいと思います。

私は3園に、訪問しました。やはりいずれにしても戸惑いがあったかと思います。戸惑いというのは、委員がどこまで関与していけば良いのか。また、受け入れの園の先生方にしてみても、どこまで自分たちの保育に対して助言してもらったらよいのかというところで戸惑いがあったのかと思います。評価表の記入で気になった点は、基本的に前期実施状況「A」と付けられるところから始めましょうというところで記入いただいたのですけれども、一人ひとり先生方の受け止めが違うということを感じました。

～訪問園の状況報告～

実際の保育を観ながら助言する時のタイミングが難しいが、現場を観ながらの方が具体的に助言しやすいこともあります。一方で、保育を観た後に、別室で保育教諭一人ひとりに面談というケ

ースでは、じっくりと話はしやすいものの時間に制約があり、やり方を工夫していく必要があるのではないかと感じました。枠組みとして考えた時には、少しずつでもPDCAのサイクルでも、チェックの部分、アクションの部分、指針・要領の言葉で言う『評価』と『改善』というサイクルが回り始めるきっかけにはなっているのではないかと思います。それでは次お願いします。

<委員>

私の方も、3園行かせていただきました。各園、環境のこととか個別のケース検討を中心にお話をさせていただきました。実際に部屋に入って、具体的に相談しながら助言させていただいたことによって、保育環境の変化が見られたことがよかった点かと思えます。

～訪問園の状況報告～

先生方が言いたいことが言えて、聞きたいことが聞けて、分からないことは分からないと一緒に考えることができ良かったと思えます。園内でもお互いの教育・保育を観せ合うことが少なかったのも、戸惑っておられたかなという感じはしますが、良い機会だったと思えます。園長先生方の評価と、先生方の実感とは別物かもしれませんが、もっとしたいという風に思っただけなら評価としては成功かと思えます。

<委員長>

ありがとうございました。では、次お願いします。

<委員>

私も3園に行かせていただきました。全ての園で時間超過しましたが、先生方の保育に対する思いや、やりたいこと、できないと思っていることのもどかしさが、その原因になっていると思えました。それぞれ先生方、経験年数とか、年齢など様々なところで、この自己評価の苦労があったのではないかと思います。ただ、この一つひとつの項目を見て、うちの子たちはどうなのかな、クラスの子たちはどうなのかなと思うところが先生方の学びに繋がっているのではと思います。できれば、前期の実施状況は全て埋めていただけたら、先生方自身が振り返るきっかけになると思えました。取組の状況に関しては、全部観た中で書くということを中心すれば、もっともっと先生方に力がついていくのではないかと思います。

～訪問園の状況報告～

<委員長>

ありがとうございました。それでは次の委員をお願いします。

<委員>

私は全園訪問しました。特別支援という視点での相談が中心だったので、その中で見えてきた感想を伝えたいと思います。サポートファイルを持っていたり、療育機関に関わっていたりするお子さんに関しては、比較的保護者の方と共通理解できるベースがあるなど感じました。一番困っているのは、保護者と先生が困り感を共有できていないというところであると感じました。時間が無かったので、別途相談の案内もさせてもらいました。まずは子ども達にどんな原因があってそんな行動が起こっているのか、困り感を保護者と共通理解できにくいのはどういう理由があるのかを一緒に考えられればと思います。

<委員長>

ありがとうございます。それでは次の委員お願いします。

<委員>

はい、よろしくお願いします。幼小の連携という視点から観せていただきました。

～訪問園の状況報告～

ある園は5歳児の部屋の前に鬼ごっこのルールが書いてあり、「これは先生が考えられたのですか？」と尋ねたら、「いえ、違います。子ども達が鬼ごっこをしていく中で困ったことがあり、それをもとに自分たちでルールをどんどん足していきました。」という説明を受けました。小学校1年生では、『チャイムを守る』とか色々なルールがありますが、ルールに馴染めない子どももいます。このような取組をしていただいたら、子ども達にとってもスムーズに1年生のスタートを切れるのではないかという印象を受けました。また、振り返りをしている園もありました。一人ずつ自分ができるようになったこととか、感想を言っていました。子ども達にとっても、自分の成長を観ていくとか、自分の思いを言葉にするとという、貴重な体験をこの時期にしているなど思いました。また、飼育コーナーや栽培コーナーが充実している園では自然物がいっぱい置いてありました。来年度から新学習指導要領が完全実施され、生活科がスタートプログラムの中でも非常に重要視されていますし、生活科の中で体験したことを文に書くとか、体験したことから体表現するとか絵を描いて表現するとか、生活科を横断的に教科の中心に据えるようになっております。このような環境の中で育つと、子ども達が小学校に入学しても、スムーズに学習に入っていけるのではないかと思いました。ある園の園長さんは、小学校からももっとこども園の様子を観にきて欲しいということを直接言われました。私たちも行きたいと思います。

<委員長>

ありがとうございました。今先生方から、訪問していただいた時の感想とか、気付かれた点、また課題を出していただきましたが、後は情報交換や意見交換などをさせていただこうと思います。例えば最後の委員が言われたように、小学校との連携から考えていくと、幼稚園やこども園の先生方は園でどんなことをしているかということや小学校の先生に知って欲しいというものもあるでしょうし、小学校の先生方も、『生活科に繋がることをしている』とか、振り返りや言語活動の所で、『こういうのが幼児期でできているのだったら、小学校1年生でももう少し工夫できるかな』というような気付きのきっかけにもなると思います。また、今年度は自己評価の項目を絞ったのですが、ゆくゆくは全項目を観ていく必要があると思います。まだこの取り組み自体がスタートしたばかりなので、これから私たちや現場の先生方とうまく改善のサイクルを回していければ良いと思います。

<委員>

将来的には全項目に目を向けることは必要なのですが、まずは、自分の良い所を評価するというのを基本姿勢とするのが1番いいと思います。その上で『次ここ頑張りたい』、『次はここを目指して頑張ります』という方が前向きで良いと思います。小学校の先生方に、現場を少しでも観ていただくということは大事です。全体の流れや、子ども達の動きを観ていただければいいと思います。夏休み等で、関係する先生方に観ていただく日を企画してもいいかと思います。

<委員>

今までは、入学してくる子どもを観に行くという視点が多く、支援の必要な子どもをどう受け入れ、どんな準備がいるかというような観点で参観をしていました。今回の訪問で、そういう視点だけではなく、こども園ではどんなことをされているのかを知ること大切であったと反省しています。例えば、こども園で指導されていることが、小学校のルールに当てはめると「それはダメです」といっていることがあります。こども園ではこうやって子どもの成長、発達を促しているのだということや小学校は知らないことが多くあると思いました。就学前教育で行われていることをどうすれば小学校で活かせるのかという発想の転換が、子どもを伸ばすことにつながることもあってはいないでしょうか。ルールの話もしましたが、杓子定規に「それ駄目よ」というだけではなく、『こういう就学前教育を受けていたらこうするのはあたりまえだよ』という部分ですね。それを小学校は学んでいく必要があると思います。

< 委員 >

でも、多くの先生にとって、「まず気になる子から観たい」ですよね。

< 委員 >

それはあります。

< 委員 >

それをインセンティブとして、保育を理解していただくきっかけになっていくと嬉しいです。

次年度からスタートカリキュラムは、子どもの様子を観て作らなければいけないはずなので、それをしっかり小学校側で認識していただくことが必要かと思います。

< 事務局 >

こども園の先生から、小学校の先生には来てもらいたいという話があり、複数の小学校区の子どもが在園していると、実際誰をどう呼ぼうかとの相談も受けています。

< 委員 >

実情をお知らせしたうえで、来ていただく日を調整したらいいかと思います。

< 事務局 >

就学前教育を観ていただくのであれば、一番多い進学先の小学校に依頼をしたらよいでしょうし、支援の必要な子どもや気になる子どもを観てほしいという意図であれば、1人であっても声をかけることになると思うのですが、どうしたらいいのでしょうか。

< 委員 >

小学校の立場から言うと、支援を要するのではないかなという子が一人でもいるのであれば呼んでいただきたいです。それは子どもを観るという視点です。また、就学前教育を知るという視点であれば、基本的に自分の学校の校区の1園にでも入っていくべきかと思います。

< 委員 >

その二つのポイントで案内をする。その二つの視点からぜひ足を運んでくださいとお伝えすることが大事ですね。

< 委員長 >

小学校で一人か二人くらいは、園を観る機会があればいいのかなと思います。ただ、せっかく今年度観たのに次年度人事異動で代わってしまったり、その小学校に誰も就学前のことを観たことがない人ばかりになってしまったら、スタートカリキュラムを作っていくときにしんどい所があると思います。子どもを観る視点と就学前教育を観る視点と、できるかぎり多様な機会をもったほう

がいいと思います。

<委員>

こども園は夏休みも保育をされていますので、夏休みの職員研修の一環として小学校からこども園に行くということも考えていけるかと思います。

<委員長>

なるほど、次年度からうまく回り始められるような気がします。幼小連携という視点からのお話が進んでいますが、支援の所を含めてご意見とか質問とかありますか。

<委員>

現場での助言がすごく良かったと、特別支援に関する個別相談の評判が良かったです。

<委員>

小学校や中学校にコーディネーターとして訪問しても、先生方とゆっくり話す時間がなかなかもないというのをすごく感じています。どうしても相談には時間が必要になります。

<委員>

評価とは別枠でそういう特別支援のシステムがあってもいいかもしれないですね。

<委員>

特別支援学校へ相談ができるのは知っていたけど、きっかけが無かったこともあったかと思います。今回、各園に訪問させていただいたことで、相談のきっかけが出来たのではないかと思います。

<委員>

同じような悩みを持っている先生方が集まって、ケースをシェアしながら研修ができると、全体的に「こういう場ではこうした方がいい」というような方向性が観えてくるのではないかと思います。

<委員>

これとは別に夏にサポートファイルの書き方という形で、一例をあげて具体的に話をする機会も作っていただいています。関わり方や、その子どもの状態をどう観るのかを文字に起こすという作業をしています。そういう機会を何年かされていますね。

<事務局>

サポートファイル研修は4回で、4年させていただいていますが、キャリアアップ研修としては2年目です。実際観てもらったところ、事例を自分の言葉で話すことによってこういう子と関わっているのだということがより具体的になるという所もあります。

<事務局>

特別に支援を要する子ども達が増えてきていると、学校の中でもすごく感じていて、対応に苦勞しています。今お話を聞かせていただいても、保護者が困り感を共有できていないということでしたので、やはり、生まれて4年間くらいの発達度合いを認知するというのは、とてもできないのだろうと思います。保育の現場でようやく気が付くところにきたという感じで、今回の事業がきっかけになるといった状況がこれから出てくるのだろうと思います。公的な部分と、民間としての教育・保育をこれからも一緒にうまくやりたいと思います。もう少し掘り下げて、これとは別という形でどんなことができるか、ジャンルが広すぎてなかなか大変な部分があります。我々も初めてのことで、校長会のたびに「もっと園を観に行け」というようなことを言っていました。どのような子どもたちが入学してくるか、それを学ぶためにも校長先生に限らず誰か行ってもらってもいいよという話をしているのですが、本当にいい話し合いができていると思います。こども園さんも研修はどの程度行っているのかということも知りたいです。

<委員>

そこはいろいろ大変です。保育所ベースのこども園はなかなか研修の時間が取れないのが実情です。しかし、こども園になって保育教諭になると研修の義務がある。それをしっかり周知して、人がいない、時間がないといった状況を把握した上で、何らかの支援策を講じるというのは大事だと思います。

<委員長>

保育資格をとると障害児保育という基礎的なことは学んではいますが、それをいかに現場に出た時に有効にしていくのか、より実践的にしていくのかというところの研修が必要なのだろうと思います。

<委員>

研修をする中で、1対1とか少人数で話していると「あっ」と納得できるのです。1つのケースで納得していただくと少しずつでも理解が広がっていくので、研修ではケース検討をさせてもらうようにしています。

<委員>

子どもも支援の必要の度合いだけでの関わりではなくて、そこに保護者、家庭背景というのがあっての今の姿というのがありますので、具体的に自分はこの事例ではどうしていったらいいのかというアドバイスを先生方は欲しいのだろうと思います。

<委員長>

20人、30人集まったの研修の部分と、個別に園でそのクラスでのサポートという両方の体制が必要なのだらうと思います。

<委員>

一度就職してしまうと、他の園を観る機会というのは少なくなってしまう。他の園でされているのがすごく斬新だったりして、それが先生方にとってはすごく学びになっているなどと思います。

<委員>

他市でも各園で少人数での公開保育研修をしていて、初めは公立から、だんだん民間に回しています。最初は公立でしておかないとなかなか難しい。ですから初めに基軸を示すという点で、公立園が果たす役割は大きかったと思います。

<委員長>

改めて整理させていただきたいと思います。まず自己評価の各園の取組については、今の良い所を自己評価していく。そこから改善のサイクルが回っていくような方向性が生まれつつあると感じています。また、自己評価をすることで、自分の、或いは各園の保育を振り返るきっかけにもなっています。しかし、「取組の状況」の内容をどういった視点で書くのかをもう少し明確にすることで整ってくると思います。次回「取組の方策」ですけど、次年度に向けて少し提案ができるかなと思います。実際の助言活動については、保育を観ないとこちらも助言できないので、観る時間を確保する必要がある。しかしながら、リアルタイムで助言した方がいい場合と、別途時間を確保した方がいい場合と、両方のケースがあると思います。その一方支援のことに 대해서는、先生方とじっくりと話をするというところで、次年度以降は少しやり方を変えた方がいいかと思います。幼小の連携に関しても、次年度はどうするか。今年度は幼児期の教育を知るといって、とても意味のあることがうまくできているのかなと思います。そういうことを踏まえて、次回の訪問方法についてということに視点を移していきたいと思います。

(2) 次回の訪問方法について

<事務局>

訪問後に行ったアンケートについて報告します。

ア 訪問について

㊦ 9月の訪問はいかがでしたか？

9月は難しい。7、8月が望ましいという意見が多かった。

㊧ 訪問時間・時程について

大多数の園では、時間が短くもっと話が聞きたかった。

時程の作り方は、次回に向けて再度園と相談していくようにする。

イ 内容、助言について

㊦ 保育内容について

1番は、職員の意識の向上。保育室の環境構成、場所の有り方、コーナー遊び、保育の展開について向上したという意見が多い。

㊧ 特別支援について

事前にリストアップすることでスムーズに相談ができた。活動を観ながらのアドバイスが良かった。

㊨ 質問について

こども園を訪問した時に一緒に相談していければ良いかと思えます。

㊩ その他

園長先生、主任先生としては、一緒に話ができることで資質の向上や理解が深まったとの意見。

ウ 訪問者について

小学校の先生に来ていただきたいという意見が多かった。第2回の訪問から行うのか、次年度から行うのかを協議していただきたいと思えます。

エ その他

8月の評価提出は難しい。

<委員長>

1回目の訪問を終えて現場の先生方の感想や委員の皆さんの感想を踏まえて、2回目の訪問についてもう少し具体的にこうしたらいいかなということや方向性で共通理解をしていただければと思います。また次回は各園こんなことを伝えればいいのかということがあればお願いします。

～2回目の訪問方法についての意見交換～

<委員>

保育室の環境と、外で子ども達が先生たちと活動しているところの二つ観ないといけないということがありました。できれば保育室の中でどう先生が子どもと関わっているのか、保育室をどう使っているのかという所が観られると、先生の普段の様子が観られていいのではないかと思います。

<委員長>

保育室の環境作りの点から考えるとその方が助言しやすい。

設定保育をしている時に何をしているのか、その先生の指導力

という点で、言葉かけや、保育の進め方を助言してほしいのであれば設定保育の方がいいかもしれません。こども園全体の環境を観て、普段どう子ども達が自由な遊びをしているのかを観てほしいというのであれば、その時間にうまく観ることができるようにスケジュールを組んだ方がいいのかと思います。

<委員>

次回から、問い（質問）に合わせて保育を見せてくださいとすると分かりやすいのでは。何回か評価をしていくうちに徐々に問いが深まっていくのではないかと思います。

<委員>

他市の巡回相談に行くと、観て欲しい時間帯を予め先生方で決めてくださって、回らせていただくことがあります。観て欲しいポイントがクラスによって違うと思うので、『回り方は園で決めて教えてください』といった方がよいかと思います。

<委員長>

さらに、小学校関係者の参加を検討していますというお話がありました。2回目に小学校の先生方が入ることでしょうか。

<委員>

やはり百聞は一見に如かずということで、自分の目で雰囲気を感じ取れないと、いくら言葉で聞いても文章で見ても伝わりません。実際に体験し皮膚で感じるのが大事だと思います。

<事務局>

12月の校長会で、2回目の訪問につきまして、全員というのは無理ですが、各学校、校長先生なり誰か行ける人はお願いできないかと思っています。

<委員>

各学校の校長が、園の雰囲気を分かれば次の話が早いと思います。校長であれば5歳児を観ていただけたらと思います。

<事務局>

園がよければ、12月の校長会でお願いをして、調整をしてみようかと思っています。

先ほど委員が言われたように、就学前教育を学ぶという視点で観ていければ良いかと思っています。

<委員長>

評価事業の評価者として行くのではないというところを前提として行くのはどうでしょうか。

<委員>

支援が必要な子については、学ぶというよりは児童観察をさせて

いただくという観点で入らせていただくことになると思います。

(3) 自己評価の記入について

<委員長>

次の議題といたしまして、後期に向けての取組の方策をどのように書いていくかというところです。まず私の考え方としましては、取組の方策の前に取組の状況が書いてあり、それに対してどのようにバージョンアップしていくのか、改善点を考えたのか、いかに継続していくのか、助言を受けて、「こういう風に意識し始めました。」ということや、実際に取り組んでいるという点と、ちょっと意識が変化して「こういう風に考えています。」ということを含めて書いていただいてもいいのかなと思います。いわゆるPDCAサイクルでいうと、取り組みの状況がチェック「C」、次への方策がアクション「A」と位置付けると、それを踏まえて後期の実施状況は維持していますよ、または向上していますよということであつたら「A」評価というように。

ある園では、『取組の状況』からどのようにバージョンアップしていったのかを書くといいとアドバイスしました。ただし、それだけを書くということに止まらず、もっと自己評価をきっかけに工夫されたり、改善されたりした所で、『取組の状況』を書いている所も取り組みの方策として書いていくのもあります。さらに、今実質上「B」に近い「A」の所に関して、その後どのように改善したかということを書いてもいいとアドバイスしました。改めて「もう少しこういう考え方もあるのではないか」というところを先生方と共有できればと思います。

<委員>

『バージョンアップしたところ』とか、『書いてないもの』とか、『Aを改善したこと』というのは本当に良いことだと思いますので、賛成させていただきたいと思います。

<委員長>

その方向性をお願いします。

それでは議題の最後、その他について事務局からお願いします。

(4) その他

<事務局>

まず一つは、第1回の委員会の時に、保護者からの意見の吸い上げをどのようにするかということで何かご意見はありませんかという話をさせていただいた時に、他市ではアンケートを取っておられるということでした。アンケートを取るにしても、その

時期とか内容、回収方法、それから公表の仕方等、色々検討しなければならぬことがあると思います。第1回委員会の時にもアンケートを取るのには夏休みが終わって大きな行事が終わって、ある程度保育が一段落して、子どもさんも慣れ、保護者も保育が分かった後の方がよいのではないかという意見があったと思いますが、それを踏まえて委員の皆さんにアンケートについてご協議いただきたいと思います。

<委員長>

保護者アンケートを取るにしても、ある程度目的は何かということが大事なのかなと思います。例えば保護者アンケートを取りました。その園の保護者の傾向として、「こういう回答傾向がありましたよ」と各園に返していくというのを考えるのか。それとも市として課題の整理という点で集約をして、個別の園ではなくて全体としての集計を園に返していくようにされるのか。その辺りをどのようにお考えなのかということにもよるのかなと思います。また項目自体も、他市では全体的なことを聞かれています、その園で頑張っておられるところとか。どのようなスタイルのアンケートを取るかによって回答傾向も変わってくると思います。この辺りを意見交換させていただきたいと思っています。

<委員>

最初のうちは少し園の方がビクッとされますけど、概ねこういう傾向なのだろうなというところは数としてでてきます。客観的に観るという意味で重要だとは思いますが。園ごとに集計して園さんにお返しするというところが基本です。相対的には大きな差は見られないと思います。ただ、自由記述のところ、こんな風に率直に感じられているのかなと思うこともたまに出てくることはあります。

<事務局>

今年度中に行うのか、色々課題もあるので整理したうえで実施した方がいいのかの判断も迷っているところです。内容についても、質問項目によっては、調整が必要なこともあると思います。

<委員>

基本的に慌てない方がいいと思います。調整や項目の選定をじっくりされたらいいと思います。

<委員長>

園長会などで内容や目的について共有した方がいいと思います。また、アンケート自体をどういう位置づけで行うのか、学校評価のように、園の評価として独自項目を取り入れるのか、それとも市全体で同じ共通項目でやっていくのかも、園長会で相談した方

がいいと思います。

< 委員 >

独自項目があつて、共通項目があるのがいいのかもかもしれません。

< 委員長 >

自分たちが頑張っている所が保護者にどう伝わっているのかが気になる所かと思います。アンケートに関しては次回も含めて検討継続という形にさせていただければと思います。

自己評価の公表の仕方とかはどうですか。

< 事務局 >

今最終的に各園の取り組み内容等を公表することによって、保護者に西脇市の就学前教育の取り組みの周知を図っていこうと考えています。公表の仕方につきましては、3回目の委員会で取りまとめができればと思います。今回はカリキュラムの普及、浸透を中心に評価をしていただいておりますので、そういった形で、取り組みを公表していく方法もあろうかと思います。どういった公表の形がいいかを助言いただきたいと思います。

～公表方法についての検討～

< 事務局 >

ありがとうございます。最後に、次年度の日程について。

< 事務局 >

次年度の第1回委員会を5月で調整できればと思います。

< 委員長 >

それでは、これで議事は終わらせていただきまして、進行を事務局にお返ししたいと思います。

4 閉 会

< 事務局 >

ありがとうございます。本日は皆さまご多忙の所ありがとうございます。次回につきましては、来年の2月28日金曜日、同じ9時半から11時半の予定で開催させていただきたいと思います。次回は後期の視察訪問を終えての各園の取り組みの状況等を協議いただこうと思いますのでよろしくお願いいたします。

< 委員長 >

活発なご意見ありがとうございました。

< 事務局 >

本日はありがとうございました。